

道徳指導路案【違うんだよ、健司】③

貝塚市立木島小学校 川崎雅也

1 主題名 友情 2-(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

2 主題設定の理由

中学生になると、世代の違いによるものの考え方や価値観の違いを強く意識するようになり、同世代によき理解者を求めたり、心の底から打ちとけて話せる友だちを得たいと願ったりする気持ちが高まる。それゆえ、互いに心を許し合える友だちを真剣に求めるようになる。ここでは、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、これを契機に友情をいっそう確かなものにするよう、この主題を設定した。

3 **ねらい** 健司と耕平との会話によって変化した僕の心を通して、心から信頼できる友だちをもち、互いに励ましあい、高めあう道徳的実践意欲を育む。

4 資料名 違うんだよ、健司 (文部科学省)

導入 3分	【生きる】を貼る	・無反応	
展開 ① 15分	資料の範読。おさらいをする。 発問1: 「お互い適当に合わせた付き合いが最高」どうして僕はそういう風に思うのですか？	お互い適当に合わせた付き合いが最高 ・人間関係はドライの方が楽だから。 ・お互いに傷つけ合いたくないから。 ・KYって言われたくないから。 ・いさかいを起こしたくないから。	・資料は教師が範読する。 ・おさらいは簡単にする。 発問1：人間関係は、ドライな関係がいと思っている僕の心を押さえる。
展開 ② 25分	発問2: 中心発問 「…健司が大事な事を教えてくれた。…」 健司が教えてくれた大事な事って何ですか？ 補助発問1: 「ぼつりぼつり…」 康平はどうして2人話し始めたのですか？ →自分のことを本当に心配してくれていると思ったから。 この2人を信頼していいと思ったから。 2人のことが本当の友だちと思ったから。 補助発問2: 「違うんだよ、健司」 健司がどうしてお節介じゃないと、耕平は思ったのですか？ →自分のことを心底心配した言葉や行動だったから。 ・自分の利害や欲のために声をかけているのではないから ・言葉に誠意を感じたから。 ・心配している気持ちが自分の心に響いたから。 ・健司の言葉の中に真心が入っているから。	①友だちについて： ・お互い適当に合わせた付き合いが最高とっていたことが間違いだということ。 ・友だちなら、心底心配するのが当たり前ということ。 ・うわべだけの付き合いは、友だちではない。もっと心の底からつきあうことが大切。 ・自分の今まで思っていた友だち関係は、本物ではなかったということ。 ・本当の友ってどんなことかということ。 ・友情の大切さ、尊さについて。 ②人との関係： ・心配なら尋ねる。適当にごまかさない。 ・誠心誠意、人と付き合うことの大切さ。 ・人を思う気持ちの大切さ。 ・人間関係の結び方。人間関係のあり方。 ・相手の心の中に入っていく勇氣。 ・相手を大切に思う気持ち。 ③生き方について： ・誠意を持って生きることの大切さ。 ・信頼の重要性、大切さ。 ・生きていく喜び、楽しさ、すごさ。 ・よりよく生きるとはどういうことか。 補助発問3: 「空を見上げると…」僕は夏の大きな三角を見ながらどんなことを思っていましたか？ →友だちっていいなあ。友だちって最高！！ もっと深い仲になりたい。素敵な関係だな。 これからもっと深い仲になるぞ。 僕に何かできることがあったら言ってくれよ	発問2：「健司が教えてくれた大事な事」を考えることを通して、生徒と一緒に「友情」についてしっかりと考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">■ 2-(3) 友情 友情の根本には信頼がある。 真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底になる。それは、相手の人間的な成長を願い、互いに励まし合い、高め合い、協力をおしまないという関係である。 (中学校学習指導要領 解説 道徳編より)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">お節介: 他人のことに対して、よけいな行動をとること。 類義語:〔口出し〕スル〔手出し〕スル〔ちょっかい〕〔干渉〕スルなど。</div> *補助発問の中で、本当の友情、友情が大切等の言葉が生徒の中から出てきた時は、そこをもっと突っ込み深く考えさせたい。 *補助発問(3)は最後に数人に当て余韻を味わう。
終末 7分	・生きる⇒よりよく生きる ・感想を書く		*感想をまとめ通信にする

5 評価：心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う心を育むことができたか？